



福島復興再生住宅協会 福島県全域

[グループの特徴とメッセージ]

- 5つの地域による展開：県内全域を5つの地域に分け、住宅建設に係る土地購入から完成引き渡しまで、各エリアでそれぞれの専門が対処できるようにする。福島復興再生住宅協会本部においては、標準設計プランの作成、各施工システム等の調整等にあたる。
- コンストラクションマネージャーとしての役割：地元の中小建設業者が建設に参加できるように、福島復興再生住宅協会内の設計者、施工コアメンバーが中心となり、施工支援を行なう。またコスト等についても建主に対しても明確化できるようにし、施工をコントロールする。

[地域型復興住宅のイメージと特徴]

避難状況・被災者の立場に立った復興住宅プランの提案

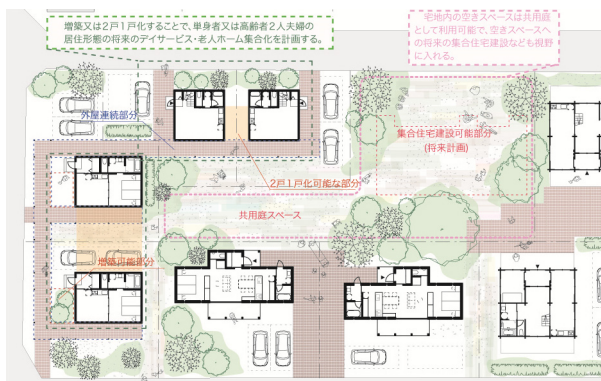
- 避難場所周辺に復興住宅が建設されることも予想されるため、その後の移動等・復帰も考えられることから、移設・転用に対応したプランとする。

求めやすい価格

- 自力再建できるよう400万円台から住宅が施工できるようにする。
- ログ仮設住宅の再利用、高性能で解体移築が可能な乾式構法、一室空間による平面計画、コンパクト化、集合化と公共機能の付加、街並と風景。

近隣自治会規模の集合化を前提、小規模公共施設・店舗等を核とした10~20棟のコミュニティ形成を目指す

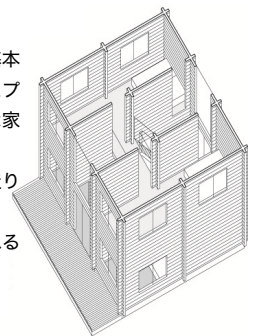
- 戸建住宅としての自立を確保するが、コミュニケーションが生まれやすい区画とする。住戸の配置によりできる大きな庭・公共スペースや復興住宅団地における、集会所・保育所・ケアセンター等の団地特性に合わせた提案を行う。



集合化を前提としたまちづくり

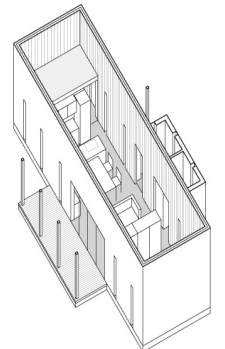
ログ・ベースプラン

- ログ材に囲まれたグリッドを基本とし、プラン構成を単純化したプラン。グリッドを拡張し様々な家族構成に対応する事が可能。
- マシンカットログにより校倉造りのような雰囲気のある住宅。
- 内装材、外装材、構造材を兼ねるログ工法によりコストダウン・工期短縮が可能。



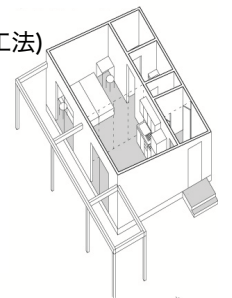
ログ・箱の家

- 短手スパンを2間に標準化し、長さを変え、家具間仕切によって、家族構成とコストに対応した、フレキシブルな一室空間。
- ログ材を縦に使い、工場パネル化することによって、短期間の建方と解体移築を可能にした乾式工法。



コンパクトハウス(在来軸組工法)

- 最小限のユニットからローコスト化を図ったプラン。
- 水廻りコアと居室を明確に分割し、将来の増築についても容易にする。
- 縁側的なバーゴラを設け外部公共空間との繋がりを促すプラン。



グループの基本情報

所在地	南会津郡南会津町針生字小坂 40-1
グループ構成	合計 184 社 (原木供給/5 社、製材/17 社、建材流通/22 社、フレカット/2 社、設計/16 社、施工/34 社、その他/88 社)
代表者名	芳賀沼伸 (株式会社芳賀沼製作 代表取締役社長)
主な受賞歴等	・年間住宅設計棟数 240 棟(うち長期優良住宅 1 棟) ・年間住宅新築建設棟数 1,100 棟 ・年間住宅増改築施工棟数 300 棟
連絡窓口	担当：滑田崇志 [メール] info@haryu.co.jp [電話] 0241-65-1001 [FAX] 0241-65-1002
ホームページ	http://www.haryu.jp/

地域型復興住宅の主な工法・価格帯

主な構造・工法	丸太組工法/木造軸組工法
価格帯	480~2,500万円
価格の基準面積	100㎡
価格に含まれない項目	屋外工事費、外構工事費、諸手続き
*価格は、地域・プラン、仕様によって異なります。詳しくはお問い合わせください。	